

快適住まいシリーズ

●家族の物語をプロデュース／(株)篠田工務店

Vol.20

子どもたちの健やかな成長を見守る高感度な家づくり

機能性とデザイン、快適性、家族の一体感を全て実現

赤城山南面ののどかな農村地帯に一際目立つような漆喰の塗り壁の家がU邸だ。スタイリッシュで真っ白な漆喰の外壁が新緑にやさしく溶け込んでいる。

就学前の子ども3人を育てるU夫妻が家づくりにあたって考えたテーマは、子どもたちの健やかな成長を優しく見守ってくれるような無垢の木の空間。

玄関を入ると、吹き抜けと、ゆったりしたワイドなLDK。主役は間仕切りのないキッチンを中心とした奥さまのためのワークスペース。キッチン奥には風呂場、洗濯機置き場、洗濯物干し室など生活動線を熟慮し無駄のない機能的なレイアウトとなっている。

2階は、天井部分を無駄なく生かし、屋根の傾斜によって余すところなく空間を利用している。家族の寝室、3人の子どもの部屋、居心地の良い書斎、ロフトなど一つ一つにこだわりが詰め込まれたもの。1、2階ともに十分な収納スペースが各所に用意されていることも大きな特徴だ。

漆喰＆無垢の木の床暖房が、高い快適性を実現

篠田工務店では、無垢の木と外壁・内壁とも漆喰が標準仕様。ベーシック＆ナチュラルな色



洗面台まわりに至るまで漆喰と無垢の木というシンプリな構成が貫かれている

で強固になる、汚れが少ない、メンテナンスが楽など、漆喰にはメリットが非常に多いのです」と同社の小林敏男取締役営業部長は語る。実際に室内でも、洗濯物は素早く乾き、しかも生臭さなども全く感じないとUさんも実感している。

柔らかな肌触りの樟

桜を用いた

樟の無垢材と漆喰の組み合わせがナチュラルなイメージのリビングダイニング。キッチンを含んで、自由に回遊できるようなレイアウトは家族全員から好評。1階フロアには、床暖房を組み込んだ。一般的に無垢の木を用いた床暖房には対応しない業者が多い。床暖房の高温で、無垢板が反ってしまうからだ。篠田工務店では、35～40度ほどの低温式床暖房を用いることで、無垢の木の床で床暖房を可能にした。過去の施工例でも、特に問題のない快適性能を実現している。「無垢の木と床暖房の組み合わせが可能かどうか、工務店選びの大きなポイントの一つでしたね。ほどよい暖かさが心地よく、今年の冬は快適でした」とUさんは振り返る。



白い漆喰壁と茶系の瓦のバランスが印象的な外観。2階ベランダは広く、いろいろな楽しみ方が考えられそうだ

家の中で自由にかくれんぼできる楽しさ

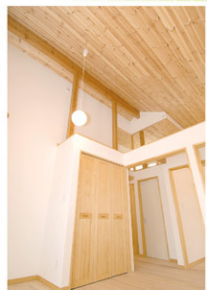
1、2階ともに子どもたちが遊び回れる空間が充実している。思う存分かくれんぼが楽しめるような造り。しかも、奥さまがキッチンにしながらに子どもたちの気配が感じられるような開放感もい。自然素材と一体感のある空間デザインが、伸びやかな子どもの成長を後押ししてくれるだろう。

「設計を担当した篠田社長が私たちの希望を一つ一つすべて受け入れつつ、

独自性の高いセンスをしっかりと注入してくれて快適で味わいのある家に仕上がりました。子どもたちも自由に遊び回ることができ、とても満足した家づくりができました」とUさんはほほえんでいた。



2階一角に用意された書斎スペース。蔵書の多いU夫妻にとってなくてはならない空間だ



男の子1人、女の子2人の子どものために大きく広くなった、間仕切りでそれぞれの部屋にできるような子どものための空間。ロフトは、家族の憩いの場